

Fact Sheet

永合由美子

—「理系アタマ」×「女性の感性」を活かしたモノづくりとワークライフバランス

化学系出身者で、よく知られた商品の開発に携わった女性、ということで、国際化学年にちなんだ今回のご縁をいただく栄に浴すことになった。女性は、消費の8割を決定するとも言われている。その女性の感性を活かしつつモノづくりができる、そんな「民間企業での理系女性の働きがい」を、2人の子育てをしながら、楽しんできた。そして今、大学の広報という仕事を通じて、「理系女性」や「工学」の魅力を伝えることを実践している。私の足跡が、これからの女性のキャリアを考える一助となれば嬉しい。

学生時代

当時まだ理系の女性は少なく、「問題を解決するアプローチを学ぶ学問」に惹かれて進学した東京大学の化学工学科では、女性は2人目。熊本・国立水俣病研究センターの赤木先生の下、大学外での勉強もした。赤木先生ご夫婦の互いを尊重する生き方に感銘を受け、「ありのままの自分」を出すことを恐れなくなった22歳、人生のターニングポイントの一つだったと思う。

就職活動では、自分の作ったものが、市場で皆さんの手に渡るその「ときめき」を感じたくて、また、環境に良いモノづくりを自ら進めたいとも思い、ライオン株式会社に入社を決めた。

ライオン株式会社時代

男女雇用機会均等法が施行された1986年の入社で、配属先はプロセス開発センター。入社1年目に社内の提案制度に4名で挑戦し、1位を獲得。提案がテーマ化したことや組織変更、社内結婚が重なり、3年目に基礎研究部門に異動、20代で2人の子供を出産した。夫の母と同居しながら、産休とフレックスタイム制度を活用して3年間をやりくり。この間、私の中では、家庭：仕事は8：2くらいのウェイトだった。

反応に時間のかかる実験が必須の部所ではなかなか成果も出せず、より自分に合った仕事を求めて人事担当に直訴、入社9年目に開発研究部門に異動した。

洗剤や柔軟剤、漂白剤等の衣料用商品を開発するファブリックケア研究所で、10年間洗剤開発に携わった。上司とのディスカッションを重ねながら、オリジナルな視点での基礎研究・シーズ探索を進め、この間、共著論文として6報を発表し、『油脂技術論文賞』を受賞した。一方、息子の野球練習で靴下やユニフォームの汚れ落ちに困っていた経験・生活実感を活かした洗濯前処理剤「プレケアシリーズ」や、におい汚れを解析したストーリーを広報活動と連動させた「部屋干しトップ」を開発。自分の開発した商品が売れるワクワク感や、商品の魅力を伝え、理解してもらえる楽しさ・充実感を実感した。この頃のバランスは、家庭：仕事は5：5くらいから、徐々に仕事のウェイトが増えていった。

入社18年目(2004年)、新設された生活者行動研究所に異動、さらに新規事業である機能性食品の企画開発を手掛け、人間研究やマーケティングの面白さも味わった。企業においては、理系出身であっても研究畑一筋とは限らない。特に消費の主体ともいべき女性の感性は、商品企画・研究開発のいずれの場面でも強力な武器になる。

(裏面につづく)

Fact Sheet



東京大学大学院工学系研究科・広報室へ

40代後半、人との関わりの面白さに惹かれ、人の可能性を挽き出し自分の経験を伝えることで社会貢献したいとの思いを強め、2009年末ライオンを退社、キャリアカウンセラーの勉強をスタートした。その後、縁あって、東京大学大学院工学系研究科・広報室の職を得、最先端研究や工学の魅力をアピールしつつ、若い人たちのキャリアサポートを心がけている。2011年、長男・長女とも働き始め、現在は、家庭:仕事のバランスは95%が仕事となった。

チャレンジする女性たちへのメッセージ

私は、ほとんど仕事実績を積まないうちに、2人の子供を出産した。子供が小学校高学年になった頃、やっと自分なりの研究スタイルで成果も出せるようになった。最近では、社会環境も整備され、出産までに実績を積む人も多い。早めの出産・育児の方が体力的には楽だが、気持ちのゆとりも大切。それぞれの人生設計の中で、いずれを選択しても(というほど現実には選べないが)、自分の可能性は自分次第だと信じている。

「理系アタマ」×「女性の感性」、加えて可能性を信じ、切り拓く力があれば、鬼に金棒。あなたも是非、自分のリソースを挽き出し、社会に貢献できるよう、自信を持って進んでほしい。

これからの理系女性に大きな期待を込めて、エールを送りたい。

略歴

年代

1962年 東京都国分寺市に生まれる

1980年 立教女学院高等学校卒業

1984年 東京大学工学部化学工学科卒業

1986年 東京大学工学系研究科化学工学専門課程(修士)修了、ライオン株式会社入社
以後、プロセス開発センター・無機材料研究室・オレオケミカルセンターを経て、ファブリックケア研究所にて衣料用洗剤の開発に10年間従事 「プレケアシリーズ」、「部屋干しトップ」を開発
『プレケアシリーズ』で功績賞、「部屋干しトップ」で社長賞を受賞

2004年以降 市場調査・商品企画部門担当

2009年 ライオン株式会社退社

2010年より 東京大学大学院工学系研究科・工学部広報室に勤務

(元ライオン株式会社、東京大学大学院工学系研究科・工学部広報室学術支援専門職員 永合由美子)